

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月29日現在

機関番号：34517

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21320057

研究課題名（和文） 後期ヴィクトリア朝イギリスにおけるマスキュリニティと友愛の政治学

研究課題名（英文） Politics of Masculinity and Friendship in the Late Victorian England

研究代表者

玉井 アキラ（TAMAI AKIRA）

武庫川女子大学・文学部・教授

研究者番号：00079097

研究成果の概要（和文）：後期ヴィクトリア朝イギリスにおけるマスキュリニティの特質を理解するために、ウォルター・ペイター、オスカー・ワイルド、ジョン・アディントン・シモンズらの文学作品と批評作品について、まず綿密な読解を行い、続いて、それらのテキストに表象されている「友愛」との力学的関係を検証した。これにより、マスキュリニティと友愛との間のダイナミックな関係の諸相を把握することができた。

研究成果の概要（英文）：This project successfully carried out the understanding of dynamic relationships between masculinity and friendship in the texts of Walter Pater, Oscar Wilde, John Addington Symonds and other late Victorian critics.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成21年度	5,200,000	1,560,000	6,760,000
平成22年度	3,300,000	990,000	4,290,000
平成23年度	2,600,000	780,000	3,380,000
平成24年度	2,600,000	780,000	3,380,000
総計	13,700,000	4,110,000	17,810,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：マスキュリニティ、友愛、世紀末文学、ヴィクトリアニズム、セクシュアリティ、ジェンダー

1. 研究開始当初の背景：

後期ヴィクトリア朝イギリスにおける「男性性」の研究を、個人的なセクシュアリティの問題からだけでなく、より大きな文化的・社会的文脈から行う必要性を感じた。

2. 研究の目的：

後期ヴィクトリア朝イギリスにおける「男性性」に関わる諸問題を、セクシュアリティに限定して検討するのではなく、新しい概念として設定した「友愛」との

ダイナミックな関係を考察することを通して検証していくことを目的とした。

3. 研究の方法：

後期ヴィクトリア朝イギリスを代表する文学者たちの基本的な作品を読み直し、さらに重要であるにもかかわらず未検討だと考えられる文献を渉猟し、より広範な視野から本テーマを考察した。

4. 研究成果：

(1) イギリス後期ヴィクトリア朝文学・

文化を代表するペイター、ワイルド、J. A. シモンズらの文学テキストを「男性性」と「友愛」とのダイナミックな関係という視点から読み直すことができ、これにより、これらの作家の重要な作品に新しい意味付けを行うことができた。

(2) 海外からの研究者、たとえばロンドン大学のショーン・ブレイディ教授を日本に招へいし、国際的フォーラムを開催することに成功した。これにより、科研課題についてグローバルな学術的環境のなかで研究を行うことができ、より一層広範な視野からの研究が可能となった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 17 件)

①角田信恵、「踊る偶像——オスカー・ワイルドの『サロメ』におけるクイアな欲望」、『境界線上の文学』(名古屋大学英文学会第50回大会記念論集)、査読有、彩流社、2013,157-74.

②野末紀之、「『ジョルジョーネ派』の批評言語」、『ペイター『ルネサンス』の美学』(日本ペイター協会創立五十周年記念論文集)、査読有、論創社、2012, 33-49.

③十枝内康隆、「ペイターはダ・ヴィンチになにを見たか——唯美主義リアリズムから単性生殖願望まで」、『ペイター『ルネサンス』の美学』(日本ペイター協会創立五十周年記念論文集)、査読有、論創社、2012, 50-64.

④森岡伸、「「触れる」ように「見る」——ペイターの'dissociation of sensibility」、『ペイター『ルネサンス』の美学』(日本ペイター協会創立五十周年記念論文集)、査読有、論創社、2012, 165-82.

⑤玉井アキラ、「文学言語の復権をめざして——ペイターの「事実についての印象」の詩学」、『ペイター『ルネサンス』の美学』(日本ペイター協会創立五十周年記念論文集)、査読有、論創社、2012, 183-203.

⑥宮崎かすみ、「オスカー・ワイルド初期のウィタ・セクスアリス」、『和光大学表現学部紀要』、査読有、14号、2012, 149-67.

⑦玉井アキラ、「言語テキストと映像テキストのはざま——イギリス世紀末文学の面白さ: オスカー・ワイルド『サロメ』の場合、

『Profectus』(武庫川女子大学英語英米文学専攻研究会)、17号、査読無、2012, 91-105.

⑧玉井アキラ、「「主体」の揺らぎ——『ドリアン・グレイの肖像』を再読する」、『オスカー・ワイルド研究』(日本ワイルド協会)、12号、査読有、2012, 18-24.

⑨岩永弘人、「ブルネット・ラティーニの罪は何か?——「地獄篇第15歌」、『クアトロ・カンティ』、第5号、査読無、2012, 22-33.

⑩岩永弘人、「フルク・グレヴィルのペトラルキズム——『シーリカ』の2つの女性像と Nature」、『英米文学』(立教大学文学部英米文学専攻)、72号、査読有、2012, 17-35.

⑪ 宮崎かすみ、「Valorising Samurai Masculinity through Biblical Language: Christianity, Oscar Wilde and Natsume Soseki's Novel *Kokoro*, ” *What is Masculinity?: Historical Dynamics from Antiquity to the Contemporary World*, Ed. John H. Arnold and Sean Brady, 査読有、Palgrave Macmillan, 2011, 370-88.

⑫角田信恵、「アイリッシュ・フランケンシュタインと「赤毛同盟」——コナン・ドイルとアイルランド問題」、『岐阜聖徳学園大学紀要』、第50号、査読有、2011, 37-51.

⑬宮崎かすみ、「De / Construction of Samurai Masculinity in a Modernizing Japan: Christianity, Oscar Wilde, and Soseki Natsume's *Kokoro*」、『和光大学表現学部紀要』、11号、査読有、2011, 221-30.

⑭角田信恵、「母の遺産、あるいは父の空白——『ジェイン・エア』における母のプロット」、『ポスト/コロニアルの諸相』(岐阜聖徳学園大学外国語学部編)、査読有、彩流社、2010, 49-90.

⑮岩永弘人、「二者択一のアレゴリー——『妖精の女王』第2巻12歌の海が示すもの」、『クアトロ・カンティ』、第4号、査読無、2010, 31-44.

⑯野末紀之、「共感、論理、自制——後期ペイターにおける「男性性」の再規定について」、『英文学研究 支部統合号』(日本英文学会)、2号、査読有、2009, 21-34.

⑰玉井アキラ、「批評家としてのオスカー・ワイルド」、『アイルランド・ケルト文化を学ぶ人のために』(風呂本武敏編)、査読有、世界思想社、2009, 164-17.

〔学会発表〕(計 6 件)

①岩永弘人、「ワイルドと世紀末演劇的ヴィジョン——サロメ・悲劇・喜劇」、日本ワイルド協会第37回大会、2012年12月1日、慶應義塾大学日吉キャンパス。

②松村伸一、「Sebastian Van Storch を読む」、日本ペイター協会第51回大会、2012年10月20日、実践女子短期大学。

③岩永弘人、「Sweet Myra never varies — フルク・グレヴィル『シーリカ』のペトラルキズム」、日本シェイクスピア学会第50回大会、2011年10月22日、聖心女子大学。

④野末紀之、「楽の戯れ——「ジョルジョーネ派」:『ルネサンス』とその周辺」、日本ペイター協会第50回大会、2011年10月15日、愛知大学車道校舎。

⑤岩永弘人、「ペトラルカの受け入れられ方——ジョージ・ギャスコインの場合」、十七世紀英文学会関西支部、2011年9月17日、大阪YMCA国際文化センター。

⑥森岡伸、「sight and touch'——ペイターを感覚から読む」、日本ペイター協会第49回大会、2010年10月16日、大阪市立大学。

〔図書〕(計 6 件)

①玉井アキラ、富士川義之、河内恵子編著、『オスカー・ワイルドの世界』、開文社、2013、551。

②角田信恵、『オスカー・ワイルドにおける倒錯と逆説』、彩流社、2013、278。

③玉井アキラ、筒井均編著、『フォースター文学の諸相——小説と小説論』、英宝社、2012、302。

④玉井アキラ編著、『後期ヴィクトリア朝イギリスにおけるマスキュリニティと友愛の政治学——国際フォーラム報告書』、武庫川女子大学、2011、50。

⑤岩永弘人、『ペトラルキズムのありか——エリザベス朝恋愛ソネット論』、音羽書房鶴見書店、2010、241。

⑥宮崎かすみ、『百年後に漱石を読む』、トランスビュー、2009、367。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

玉井 アキラ (TAMAI AKIRA)
武庫川女子大学・文学部・教授
研究者番号: 00079097

(2) 研究分担者

高島 美和 (TAKASHIMA MIWA)
女子栄養大学・栄養学部・講師
研究者番号: 00510166

宮崎 かすみ (MIYAZAKI KASUMI)
和光大学・表現学部・教授
研究者番号: 10255200

松村 伸一 (MATSUMURA SHINICHI)
青山学院女子短期大学・英文学科・教授
研究者番号: 10259012

岩永 弘人 (IWANAGA HIROTO)
東京農業大学・地域環境科学部・教授
研究者番号: 20193758

森岡 伸 (MORIOKA SHIN)
札幌医科大学・医療人育成センター・教授
研究者番号: 40113633

野末 紀之 (NOZUE NORIYUKI)
大阪市立大学・文学研究科・教授
研究者番号: 70198597

十枝内 康隆 (TOSHINAI YASUTAKA)
北海道教育大学・教育学部・准教授
研究者番号: 80359489

角田 信恵 (TSUNODA NOBUE)
岐阜聖徳学園大学・外国語学部・教授
研究者番号: 90113323

(3) 連携研究者

()

研究者番号: